

基本的なお世話の仕方

飼育容器は、直射日光の当らない、温度変化の少ない場所に設置します。
夏場でも空調などで思いのほか気温が下がってしまう場合がありますので、エアコンなどの風が直接当たる場所や気温が適切ではない場所に置かないように注意しましょう。

オカヤドカリは臆病でストレスに弱い生き物です。
静かに観察するようにして、むやみにいじり回したり、
動かないからと振り回さないようにしてください。

飲み水や食べ物は腐敗しないように、こまめに取り替えます。
敷き砂は排泄物や食べ残しなどで汚れますので、環境や
オカヤドカリの様子を見て、良い時期に中の砂を取り出して
米をとぐ要領で洗い、天日で乾燥させてから入れ替えます。
ヤドカリが脱皮の時期に入っている場合は砂を動かさず、
そつとしておいてあげましょう。

■飼育での注意点■

※オカヤドカリは暖かい地方の生き物ですから、寒い所は苦手です。

飼育に適した「温度と湿度」に気をつけて下さい。

気温が15°C以下にならないように、寒い時期には容器を暖かい場所に
移したり、シートヒーターなどで温度が下かり過ぎないようにしてください。

※オカヤドカリにとって、脱皮は成長のための大事業です。

飼育する上で、一番死亡事故が多いのがこの時期のトラブルで、
脱皮に失敗して死んでしまう個体も少なくありません。

脱皮は一ヶ月以上かけて行ないます。(脱皮の時期は触らないように注意します。)

この時期には特に、水の補給や温度・湿度、に注意してください。

温度変化が少なく、暗く湿っていて、他の個体から干渉を受けない場所
(石や落ち葉や砂の中)が必要です。

また、脱皮後の栄養補給のために、自分で脱いだ殻を食べますので、
脱皮した殻を見つけても、そのままにしてあげましょう。



大切なお願い -- オカヤドカリは生きてています --

オカヤドカリの寿命は大変長く、20年以上と言われています。

きちんと飼育すれば、脱皮を繰り返して大きくなり、冬を越して何年も生き続けます。

その命が終わるまで、飼育者としての責任と愛情をもって飼育してください。

飼育者のわがままから見放したり、世話を怠らないようにしましょう。

そのためにも、基本的なオカヤドカリの生態について、よく理解しておく事がとても大切です。

生き物には、それぞれに適した飼い方や特徴、大切な注意点がたくさんあります。

この小冊子を入り口に、飼育書や図鑑、専門書などからも知識を深めるようにしてください。

お子様が飼育をする場合でも、必ず保護者の方が生き物について理解を持ち、
適性に毎日のお世話ができるようにサポートしてあけるようにしてあげてください。

飼育用品は、飼育のお手伝いをすることしかできません。

飼育の内容をよく考え、生体の個性に合った用品を、
正しい用法・状態で使用するようにしてください。



HERMIT CRABS

オカヤドカリ



を飼ってみよう!



オカヤドカリは、その名のとおり「陸」に住むヤドカリで、木登りや
砂もぐりが得意。チョコチョコと高い場所によじ登ったり、ヒゲやはさみを使って、器用に身づくりをする姿が、とてもユーモラス。
かわいらしく、楽しいオカヤドカリに癒されませんか?



南国気分の箱庭で、オカヤドカリを飼ってみましょう!

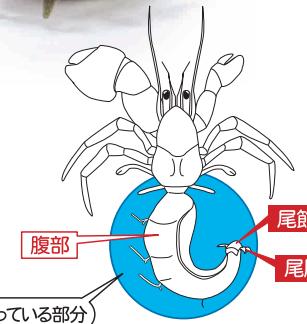
オカヤドカリはどんな生き物?

ヤドカリの仲間達はカニやエビに近い生き物で、背中の貝殻は持って生まれた物では無く自分の体に合った貝殻を探して身に付けていますので、その様子から「宿借り(ヤドカリ)」と呼ばれています。

オカヤドカリは、磯などの海水に浸かる場所ではなく陸(おか)に住んでいるヤドカリで、日本では、沖縄や奄美大島などの高温多湿な、熱帯から温帯地方にかけての海岸近くに生息しています。

オカヤドカリは、現在、国の天然記念物に指定されており許可なく野生のオカヤドカリを採集することはできません。

※許可を受けた業者のみが、時期と捕獲する量を守った中で採集することを許されています。



オカヤドカリの体のつくり

足は全部で5対(10本)あり、そのうち4本は貝殻の中に隠れています。頭やハサミなど、貝殻の外に出ている部分はよろいのように硬くなっています。貝殻の中には柔らかな腹部が収まっています、腹部の先にある尾肢という突起で貝殻をしっかりと支えています。

(貝殻に入っている部分)

オカヤドカリの成長

オカヤドカリの幼生の時期は海中で過ごし、何度か脱皮をして成長すると、体に合う巻貝の貝殻にもぐりこんで陸に上がり、それ以降は陸上で生活をするようになります。

成体になった後も、脱皮を繰り返して大きくなっています。

若い固体は月に1度程度、大きな個体では年に2~3度ほど脱皮をします。

その時期が近づくと、隠れ家に籠ったり、砂の中から出てこなくなる事が多くなります。

脱皮の前後はとても体が弱い時期です。むやみに触ったり砂を動かしたりしないように、水とエサのみをとりかえるだけにしてそっと見守るようにしましょう。

脱皮のために、砂に潜っているオカヤドカリは、掘り返さないようにしてください。



▲砂の中で休息をとるオカヤドカリ。
ストレスを与えないようにしましょう。

●飼育環境

南国生まれのオカヤドカリ達は、暖かな環境で生きています。飼育の適正温度は22~28°C・湿度60~80%と言われています。寒い季節などには、気温が低くなりすぎ無いようにして飼育容器の中に水槽などを設置して適度な湿度が保てるようにします。

飼育容器は出来るだけ大きな容器に、少ない個体数での飼育が基本です。 ※(プラスチックケース(中)サイズや30cm水槽なら、親指程の大きさのオカヤドカリが2~3匹まで。)

高い所にも登り、意外と力持ち。力強い爪で、ケースを乗り越えてしまう事もあります。飼育容器は、フタがシッカリと閉まり確実に固定できるタイプがお勧めです。

●敷き砂

オカヤドカリは砂もぐり得意。身を休めたり、脱皮の時の隠れ場所にもなります。敷き砂は個体サイズの2~3倍の深さで敷いておきます。



ケースの中を箱庭のようにキレイにディスプレイして楽しんでみよう!!



●隠れ家と足場

オカヤドカリが安心して身を隠せる、ハウスなどの物陰を用意しましょう。また、活動時間にはよく動きます。高い場所に登ったりするのも大好きなので、立体的に動けるような楽しいレイアウトを作ってみましょう。



●貝殻

成長して、身につけている貝殻が狭くなってくると体に合う新しい貝殻を探して引越し(貝殻を変える)をします。ヤドカリが好きな貝殻をいつでも選べるように、色々な種類と適度な大きさの巻貝をいくつか準備をしてあげましょう。



●エサ

食性は雑食で、いろいろな物を食べています。専用フードを中心に、野菜やフルーツなども与えます。

ミネラルの補給も欠かせません。「雑食性」とは色々なものからの栄養を必要としているという事です。

バリエーションと栄養の偏りが無いようにしてあげましょう。

※飼育環境が高温多湿になるため、エサが痛みやすくなります。

与えたエサは悪くなる前にとりかえましょう。



●水と水分補給

水分はオカヤドカリの飼育にとって、とても大切です。

生命維持に欠かせないだけでなく、適度な水分を貝殻の中に溜めておき、その水分を使ってエラ呼吸をしています。水道水に含まれる塩素はヤドカリに負担をかけるので、一晩汲み置きした水を用意します。

水は浅めの水皿に入れて、いつでもきれいな水が飲めるようにしておきましょう。深い水槽はおぼれてしましますので、体の大きさに合わせて、沈み込まない程度の深さのものを用意します。中にスポンジを浸して水を含ませておくと飲みやすく、ケースの中の湿度調節にも役立ちます。